



広報みやけ

今月の人口
人口 3,669人
世帯 1,892世帯
(8月1日現在)
編集 三宅村総務課
☎03-5320-7824



ヘリコプターによる牧草の種まき後の雄山山腹



あ長谷川鴻村長
いさつ

一時帰宅は9日～13日

『三宅島を再生し』『新三宅島を創る』

昨年6月26日に端を発した火山活動は有史以来、前例のない全島避難という事態にたち至りましたが、これまでには不慣れな都会での避難生活によく耐え頑張っていただいております。

本年5月より三宅支庁第2庁舎のクリーンハウスの完成により三宅島での夜間施設や砂防ダムの設置等の整備が懸念に進められています。

また、すでにご存知とは思いますが、村民の皆さまからの要望が高かった、一時帰宅につきましては今月9日から順次実施することといたしました。この一時帰宅は村民の皆さまが三宅島の現状を直接確認していくたまごとに、皆さまから意見とです。

三宅村では平成13年9月9日（日）（竹芝出発日）から9月13日（木）までの5日間、全世帯を対象とした一時帰宅を実施します。実施要領は次の通りで

山ガスの放出はいまなお日量1～3万トンと依然として多い状態です。しかしながら、村民の皆さまの一日も早い帰島に備え、国および東京都ならびに関係機関の協力を得て都道、電力、電話、水道などのライフラインの復旧ならびに泥流被害を防止するため、流木止

設置や砂防ダムの設置等の作業が効率的に図られています。

また、年頭のごあいさつでも申しまが手を取り合い、力を合わせてこの苦難を乗り越えていただきたいと思います。そして三宅島を再生し新しい三宅島を創るために立ち上がる私たちは、年頭の使命であると考

めます。また、村民の皆さまにおかれましてはいましばらく勤労福祉会館等もクリーンハウスが整備され、三宅島でのより大勢での夜間滞在が可能となつております。

また、復興はもちろんのこと、復興計画に反映していくことも大きな目的としておりま

す。年頭のごあいさつでも申しまが手を取り合い、力を合わせてこの苦難を乗り越えていただきたいと思います。そして三宅島を再生し新しい三宅島を創るために立ち上がる私たちは、年頭の使命であると考

めます。また、村民の皆さまにおかれましてはいましばらく勤労福祉会館等もクリーンハウスが整備され、三宅島でのより大勢での夜間滞在が可能となつております。

また、復興はもちろんのこと、復興計画に反映していくことも大きな目的としておりま

全世帯に『一時帰宅』

テレホンサービス 実施決定の確認を

△目的 ①住民が島民避難から1年経過後の三宅島の現状を確認するため②住民の意見を三宅村復興計画に反映させるため。

△対象者 ①1世帯1名

②平成12年6月26日現在の

△実施方法 ①三宅村内を5ブロックに区分する（左の概要図参照）②ブロックごとに日帰り（船中1泊）の日程で実施する③一時帰宅者20名以内を1班とし、1ブロック20班ごとに保

て実施する④1班ごとに保

<

シルバー・バス 更新申請

9月中に手続きできます

平成13年9月30日を有効期限とする「シルバー・バス」に更新を受けることができます

持っている人は、9月中に更新を受けることができます

広報みやけ

平成13年9月30日を有効期限とする「シルバー・バス」に更新を受けることができます

一斉更新対象者

該当者	バス協会からの送付書類	発行に必要なもの
平成13年7月までにバスの発行をした人	・シルバーバス更新申込書・住所・氏名・生年月日が確認できるもの（老人保健法「医療受給者証」または「介護保険被保険者証」）・現在ご使用のシルバーバス（平成13年9月30日まで有効のバス）・発行に必要な費用（更新申込書に記載）	
平成13年8月以降にバスの発行をした人	なし ※バスの発行を受けた窓口にて上記書類が渡されます。	

一斉更新対象外者

該当者	発行時期	発行に必要なもの
平成13年9月30日を有効期限とするバスの発行を受けてない人	新バスは10月1日以降の発行になります。 ※9月中は、有効期限が平成13年9月30日までのバスしか発行が出来ませんので、ご注意下さい。	・シルバーバス引換券・住所・氏名・生年月日が確認できるもの（老人保健法「医療受給者証」または「介護保険被保険者証」）また、・発行に必要な費用（引換券に記載）
9月に誕生日を迎える人		
10月以後、誕生日の人	満70歳になった時	

介護サービス利用料の軽減

扶養親族の数 平成13年9月まで適用 平成13年10月まで適用

扶養親族の数

乳幼児を養育している者

早いものであれから1年がたちました。避難当初は混亂の中、全国の方々のご支援にすがるばかりでした。子供たちも、不安で受け身の日々を余儀なくされていました。子供たちは、新年度に入り転校先の学校に通学する児童が多くなり、秋川校舎で学ぶ児童は

舍で学ぶ児童も、4月から委員会活動を再開しました。この活動は各委員会がよりよい学校生活を送るために、自分たちにできるこ

援してくださっている方々

子供たち自らの力で、支

持つてお世話になつたあきる野市の各機関へお贈りしたのです。

阿古小学校長
前沢 蔵人

三宅村学校便り

(3)

子供たちからの贈り物

少なくなりましたが、それが選択した道を元気に頑張って欲しいと祈る思いであります。

伊豆
伊ヶ谷
阿古
坪田

三宅村立小学校（秋川校）全員が1人1鉢の朝顔を育てました。お世話係と信州高速へ。新宿から一路

と自ら考え実践する活動を推進するものです。その活動の一環で花いっぱい運動を行いました。子供たちへと変容してきたものだと

へと変容してきたものだと

</div